

## 令和3年7月1日現在の世帯数と人口

(千種区 18.18Km<sup>2</sup>)

学区名	世帯数	人 口			対前月増減	
		総数	男	女	世帯数	人口
1 千 種	5,528	8,855	4,482	4,373	△ 8	△ 6
2 千 石	3,880	6,625	3,367	3,258	16	13
3 内 山	5,634	8,002	4,273	3,729	1	△ 22
4 大 和	3,414	6,657	3,267	3,390	△ 18	△ 30
5 上 野	7,373	15,472	7,611	7,861	△ 24	△ 34
6 高 見	7,289	13,296	6,363	6,933	△ 6	△ 15
7 春 岡	6,819	11,010	5,762	5,248	6	3
8 田 代	11,202	21,835	10,402	11,433	△ 25	△ 53
9 東 山	10,318	19,344	9,435	9,909	2	△ 13
10 見 付	4,353	8,194	4,097	4,097	8	8
11 星ヶ丘	3,470	6,830	3,054	3,776	△ 4	3
12 自由ヶ丘	3,570	7,294	3,299	3,995	2	5
13 富士見台	6,423	15,210	6,930	8,280	△ 3	△ 11
14 宮 根	3,775	8,145	3,773	4,372	6	3
15 千代田橋	3,692	8,354	3,940	4,414	0	2
千 種 区 計	86,740	165,123	80,055	85,068	△ 47	△ 147
R2.7.1	88,421	166,123	81,155	84,968	71	49
対 前 年 比	△ 1681	△ 1000	△ 1100	100	△ 118	△ 196
名 古 屋 市	1,125,378	2,328,431	1,143,247	1,185,184	112	△ 650
愛 知 県 ( R3.6.1 )	3,248,368	7,527,800	3,751,270	3,776,530	1,589	△ 1,454

前月中の増減内訳	自然動態			社会動態		
	出 生	死 亡	自然増減	転 入	転 出	社会増減
	84	137	△ 53	889	983	△ 94

【参考】

国勢調査千種区人口				これまでの最大人口	
昭和55年	166,837	平成12年	148,537	173,598 (昭和50年2月1日)	
昭和60年	163,762	平成17年	153,118		
平成2年	156,478	平成22年	160,015	これまでの最少人口	
平成7年	148,847	平成27年	164,696	146,727 (平成11年4月1日)	

- 注1) 令和2年度の国勢調査の世帯数と人口は、確定値が出ていないため千種区人口は未掲載。  
 注2) 世帯数と人口は、令和2年国勢調査結果の本市独自集計速報値を基礎とし、毎月の住民基本台帳人口の異動数を加減して推計したものである。

## 千種区の外国人人口の概況

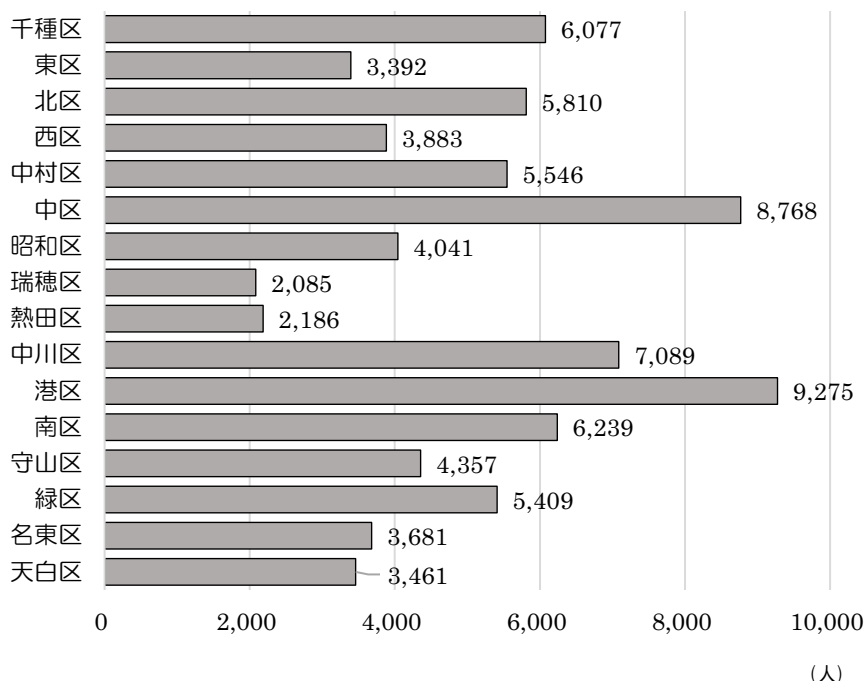


図1：区別外国人人口（令和3年6月1日現在）

今回は、名古屋市及び千種区の外国人人口の概況を見ていきます。

まず、名古屋市内の区別外国人人口について見てみます（図1）。

名古屋市内の各区の令和3年6月1日現在の外国人人口の数を比較してみると、港区が9,275人と最も多く、続いて中区が8,768人となっています。千種区は6,077人で、16区の中で5番目となっています。

次に、千種区の国籍別外国人人口について見てみます（図2）。

令和3年6月1日現在の千種区の国籍別外国人人口を見てみると、中国籍の人口が1,785人と最も多くなっています。また、アジア圏の国籍人口は4,829人となっており、これは千種区の

国籍別外国人人口全体の約8割を占めています。

次に、令和3年6月1日現在の千種区における、平成24年からの10年間の外国人人口の推移について見てみます（図3）。

千種区では平成24年からの10年間で外国人人口が1,326人増加しており、平成25年から令和元年までは外国人人口が増加傾向にあります。特に平成28年から平成29年にかけて最も大きく増加しており、前年と比べると706人増えています。令和元年以降は外国人人口が減少傾向になり、令和元年から令和3年にかけて724人減っています。

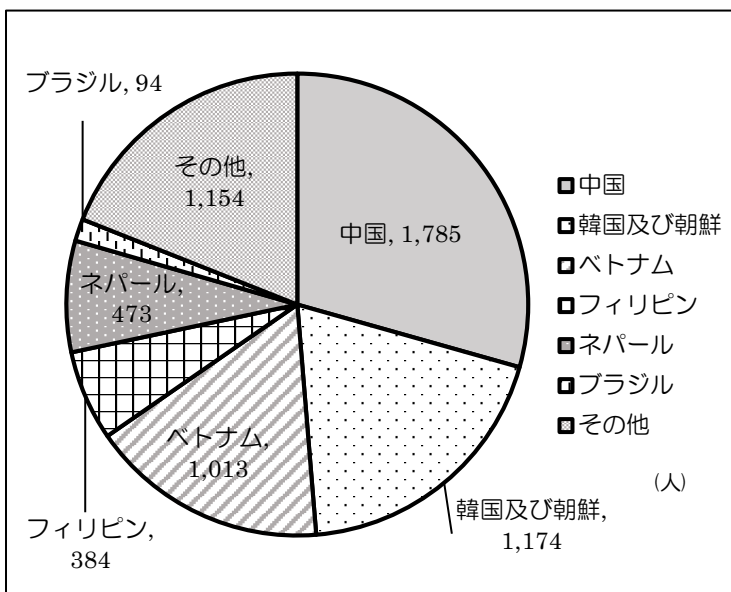


図2：千種区の国籍別外国人人口（令和3年6月1日現在）

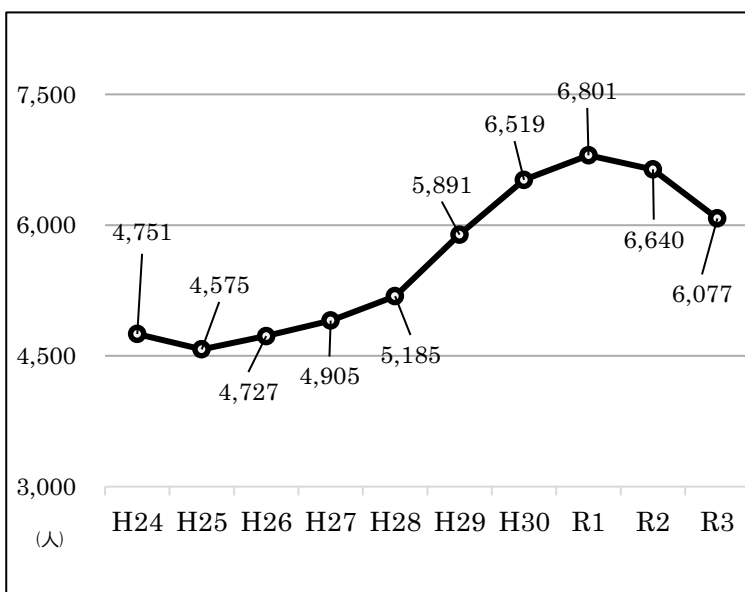


図3：千種区の毎年6月外国人人口の推移（令和3年6月1日現在）